

## 【活用にあって】

次の各新聞記事を読んで、答えを確認しましょう。

大人の人に使っているか聞くのも楽しいですよ。

### 美濃ことば 飛驒ことば

けなるい

県内全域

●意味 うらやましい

●解説 岐阜県人は、他人が自分より良いものを持っていると、「こう言います。『あんたんとは、おだいじんやで、けなるいなお』」  
「けなるい」は、古典で習う「異(け)なり」から来ています。文字どおり、原義は「変わっている」だが、「優れている」の意味で「源氏物語」にも見られます。

その後、形容詞化して「けなるい」となり意味も変化しました。岐阜を代表する方言としてNHK連続テレビ小説「半分、青い。」で頻用されたことは記憶に新しいですね。県人の性格の一端を表す一語と言えます。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)

### 美濃ことば 飛驒ことば

ためらって

飛驒、中濃北部、東濃

●意味 気をつけて

●解説 飛驒で温泉につかっ  
て、旅立つ際にこう言われました。「ためらってな」  
「ためらう」は、「躊躇する」の意味で使われますが、古く平安時代には、高ぶる気持ちを「矯める」ところから「気を静める」との意味で用いられていました。飛驒には、この原義に近い用法が残っています。

楽しい旅行でも、とかく帰り道は気もやるもの。気持ちを静めて行きなさいと送り出すのは、単に「気をつけて」と言うよりも、相手の状態を見ていさめる思いが強く表れた表現と言えます。旅情の最終ページにふさわしい言葉です。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)



## 美濃ことば 飛騨ことば

あのじん

全県

●意味 あいつ

●解説 人を少し卑下してこう言うことがあります。

「あのじん、どーゆーやっちゃ」

「じん」は「人」の意味で、室町時代ごろから用例が見られ、江戸時代の浄瑠璃には「あの仁(じん)」と使われる例が確認されます。今でも「御仁」と言うように、元々は敬称。それが敬意通減の法則(時代とともに敬意が失われていくこと)により同等以下を指すようになりました。

話し相手を指す「アンタ」も「彼方(あなた)」の意味で敬称でしたが、今では同等以下に使う言葉。結婚当初、親しさを込めて妻を「アンタ」と呼び、叱られたことを思い出します。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)

## 美濃ことば 飛騨ことば

わっち

岐阜、西濃

●意味 私

●解説 昔、祖母が人から何か頼まれたとき、よくこう

言っていました。「わっちがやっといたるわ」

語源は「私」です。室町時代ごろから見られ、戦国時代には足軽が用いたようです。江戸時代には、町屋の娘などが用いたため、全国的には女性ことばとされますが、岐阜では男女ともに使っています。

一方、話し相手には「おまはん」を使っています。こちらは「お前さま」から来ていますが、気の置けない仲で使います。「わっち」と「おまはん」、この距離が方言の使われる距離なのです。

(岐阜大教育学部教授・山田敏弘)